

狂言「入間川」と私

杉山康子

大変嬉しいニュースです。毎年、狂言入間川を観る会の鑑賞会にご出演いただいている大蔵流山本会四世山本東次郎先生が、今年七月「人間国宝」になりました。

大蔵流山本会と狂言入間川を観る会とは、平成五年水野公民館の実年大学で、ご近所にお住まいの東次郎先生の弟の則直先生が出演され、東次郎先生が解説をされたことから始まりです。この時、古典サークルの講師広沢謙一氏と当時教育委員長の布田光男氏を中心に古典サークルの皆さんが集まって、



狂言「柿山伏」を演じる山本東次郎先生

狂言を観る会が平成六年五月発足しました。私は則直先生のお宅に近い事で世話係として現在に至っています。私が小学生の時学校ではじめて観た狂言「末広がり」、そして大人になってから国立能楽堂で観た「入間川」が、共に山本会の出演であった事も何かのご縁かなと思っています。

平成六年は市制四十周年事業で狭山市主催の薪能が十月二十二日に行われました。その年の十一月十三日が、狂言入間川を観る会の第一回公演でした。狂言「入間川」は入間川を舞台に郷土史にも書かれた逆さ言葉为主题としたものです。集客が心配されましたが、大ホールに大勢のお客様

を迎える事ができ実行委員一同ホッとしたことが思いだされます。その後鑑賞会を毎年続けて居ります。

平成二十二年四月に山本則直氏が逝去された事は大変悲しく残念な事でしたが、ご子息の泰太郎さん、則孝さん、孫の凜太郎さんが立派に後を継いでいて、泰太郎さんは平成二十二年度文化庁芸術祭賞の優秀賞を受賞しています。凜太郎さんは今年三月四日、第十八回狂言鑑賞会の日が丁度高校の卒業式と重なり、「入間川」の出演には間に合わず、「那須の語」を一人で立派に演じました。亡き則直先生が教え込まれたそうです。

山本会は狭山市の学校で鑑賞会を開き、子どもたちの古典芸能への関心を深めています。先日南小で鑑賞会があり、泰太郎さん、則孝さんが本校の卒業生だと聞き、子供達は歓声をあげていました。

第十九回鑑賞会は来年三月九日(土)に開催致します。再来年は第二十回、節目の年となりますので楽しい演目とを考えています。よくこんなに長く続けられた事、皆様に感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます。今後狂言が狭山の多くの方々に愛され、狂言入間川を観る会を支えて下さる事を祈っています。



狂言「入間川」を演じる泰太郎さん(左)と則孝さん(右)

(狂言入間川を観る会文団連理事・古典を読む会会員・朗読研究狭山会会員・水野在住)

編集後記

今夏も猛暑続きで、熱中症も心配。だが、文団連では6月の入曽地区の「民話歩き」も暑い日。7月の笹井小での青少年文化体験フェスタは、冷房の無い教室で生徒も講師も頑張った。西口市民交流センターオープニングでは、各団体が熱演。私の民謡協会でも、8月に2年振りの「民謡のつどい」を市民会館で開催した。

会報制作を含め、何れも暑い中での活動が、紙面で伝われば幸いです。(高沢正夫)